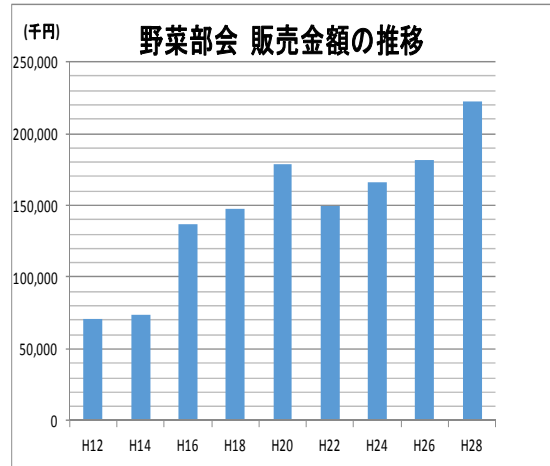


栽培品目の充実・拡大と地域労働力フル活用で園芸産地発展！

酒田市袖浦農業協同組合野菜部会（酒田市）

1 受賞者の概要

全国的にメロンの価格が低迷し、後作にどのような品目を作るかが課題となる中、平成12年に大根・葉もの野菜主体に販売金額7千万円で部会はスタートした。平成28年までに、23品目2億2千万円に売上を伸ばし、JAそでうらの園芸の要に成長した。部会で取り組む品目（きゅうり、トマト、なす、さやいんげん、さやえんどう）を経営の柱としたモデル経営体も誕生し、後継者が育ち、女性・高齢者も多く経営に参画し、雇用を生み出すことで、地域労働力をフル活用して盛り上がっている。



2 特色ある活動

(1) 栽培品目の充実・拡大

メロンに代わる品目の導入のため、有志が独自に試験栽培に取り組んだ。実需者・消費者ニーズに基づいた取組みで、試験に基づく収益性の確認や栽培方法をマニュアル化し部会への定着と拡大を図ってきた。23品目から個人にあった品目を選定する事で、周年化や収益性の高い魅力あるモデル経営体も誕生した。

(2) 栽培技術力の向上

栽培技術の習得は、圃場巡回によって徹底的に学び、特に病害の症状の見極めに力を入れてきた。全品目に手間をかけ個別選果することで、品質・規格を見る目が養われ、技術向上に活かしている。また、個人毎の収量・品質や売上の実績を積極的に公開し、個々の技術レベルの確認と経営拡大意欲を醸成している。

(3) 販売先の確保と信頼関係の構築

販売先を確保するため、販売先との相互交流により実需者ニーズを把握しながら品質を高めることで信頼関係を強化してきた。さやいんげん、さやえんどうは、厳格な選別の徹底と継続によって、卸から「日本一の品質」と称され産地ブランドの向上と部会員の励みとなっている。

(4) 地域貢献

魅力ある営農の実践は、多くの後継者の確保や女性の積極的な経営参画に結びついている。特に、軽量野菜は高齢者でも営農継続できる品目として生産者を増やし、さらに多くの雇用を創出し、地域労働力をフル活用している。また、これらは遊休農地の抑制にも貢献している。

3 今後の発展方向

これまでの、品質の高い農産物生産を軸にし、さらに「味」にこだわり、販売先との連携を図りながら、おいしい袖浦野菜のファンを増やすことで、個別経営の拡充と市場で戦える魅力品目を生み出し、更なる産地の発展を目指している。